

自立活動の指導 教材・実践事例 25選

○生活単元学習・作業学習における実践
No.1～No.4

○日常生活の指導における実践
No.5～No.13

○各教科等における実践 No.14～No.25



福島県立たむら支援学校

地域支援センター ゆめここ

No.1

単元・題材名「ボールをころがそう」(生活単元学習)



<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○思い通りにならないと、壁や人を叩く。奇声を上げる。 ○注目することが難しい。 ○意思表示の手段は少ない。(指差しやクレーン) 言語と写真カードの併用で、活動内容や場所を理解し行動する。
<p>指導内容の区分</p>	<p>環境の把握 コミュニケーション</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○転がすものを複数準備し、提示し、本人が転がしたいものを選べる環境を整える。 ○本人に向かって転がすようにし、注目しやすくする。 ○一度転がした後は、児童の動きを見守り、児童がどのようにしたいのかを観察してから、言葉掛けや支援を行う。 ○児童の動きに言葉をつけて、動きと言葉の一致を図る。

No.2

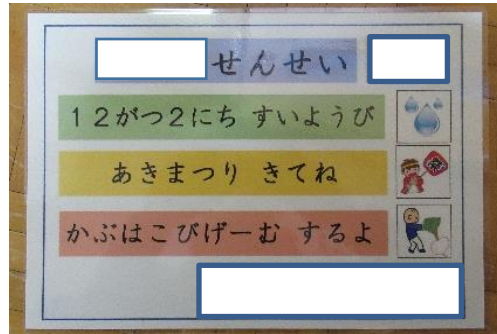
単元・題材名「段ボールで遊ぼう」(生活単元学習)



<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや気持ちを明確に表現したり伝えたりすることが難しい。 ○教師と一緒に遊ぶことは好きだが、友達と関わって遊ぶことが少ない。
<p>指導内容の区分</p>	<p>人間関係の形成 環境の把握 コミュニケーション</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○初めは、教師が段ボール箱を用いて遊び方のモデルを示す。教師は興味をもって遊び始めた児童の様子を見ながら、同じ遊びを共有したり、遊びや動きに合った言葉掛けをしたりして関わる。 ○友達と同じ遊びをしようと誘い掛けたり、教師が介入して児童同士が関わり合う場面を設けたりする。

No.3

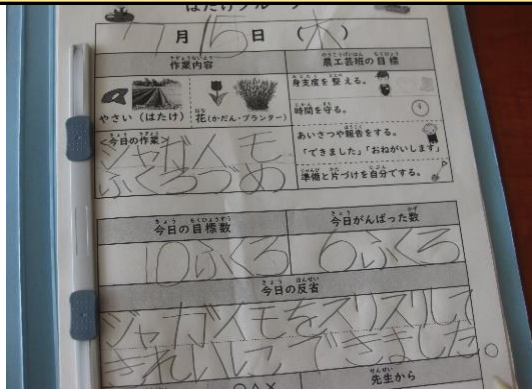
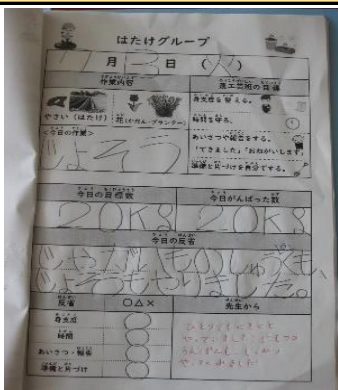
単元・題材名「あきまつりをしよう」（生活単元学習）



<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○活動をイラストや写真を見て結びつけることが難しい。 ○見通しをもつための手段や理解できる非言語情報が少ない。 ○人との関わりの幅が狭い
<p>指導内容の区分</p>	<p>人間関係の形成 環境の把握</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びの活動の前後にイラストを活用することで、イラストと遊びを結びつける経験を繰り返し、イラストから活動の見通しをもつことができるようにする。 ○選択した内容を招待状として活用することで、言葉・イラスト・文字の関係に気付くことができるようにする。

No.4

単元・題材名「畑の整備・野菜の栽培」（作業学習）



<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○4月の新入学当初から、活動時間の切り替えで落ち着かなくなる様子が見られた。小学部の児童や教師の名前に強いこだわりがあり、頻繁にプレイルームまで行き小学部の教室をのぞき込んでいる。 ○小学部の教師児童に過剰に関わることは好ましくないと伝えると、大声を出して駄々をこね寝転がってしまい、次の活動に向かうことが非常に困難になる。
<p>指導内容の区分</p>	<p>心理的な安定 環境の把握</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒本人は作業学習の内容自体には意欲的で、特に畑の除草を好む。活動の切り替えで乱さずに、上手く畑の活動に入れるように支援することが重要である。 ○切り替え時に駄々をこねている状況で、言葉だけのやり取りで説得し納得させることは非常に困難なので、まずは作業ファイルの日誌記入に誘い、生徒自らが作業内容に対しての見通しを持つことが必要である。 ○日誌の中では、作業内容と目標を決めるところは生徒本人の主体性に任せ、交渉しながら本人が決めている。

No.5

単元・題材名 「 朝の活動 」 (日常生活の指導)



- 児童の目につきやすく、操作しやすい場所に設置しておく。
- 既知のカードを使用する。

学習上または生活上の困難さ

- 言語が不明瞭で自分の思いが伝わりにくく、気持ちが不安定になりやすい。
- 相手が何を話しているのかが分かりにくく、口頭での指示が通りにくい。
- 何をやるのかは分かっている、自分のやりたいことと折り合いをつけることが難しい。

指導内容の区分

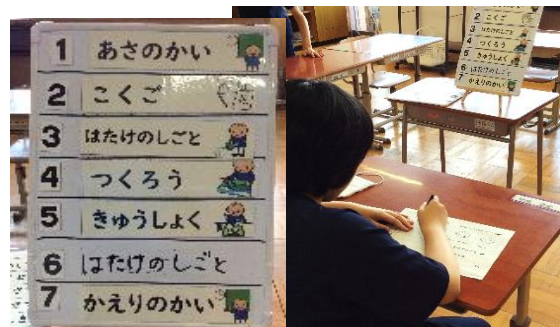
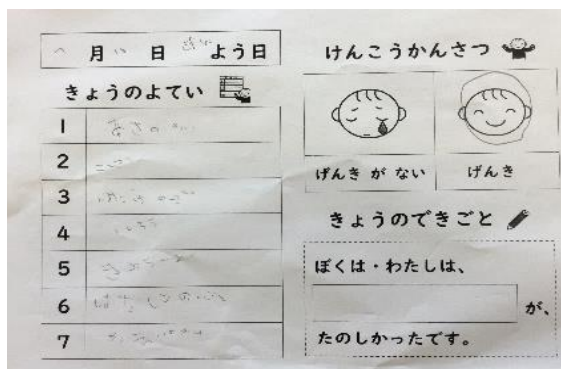
心理的な安定 人間関係の形成 コミュニケーション

支援のポイント
～自立活動の観点から～

- 児童自身でカードを貼ったり、児童の言葉を書いたりして、自分で予定を決められるようにする。
- 予定について自分の思いを伝える姿が出てきたときは、その言葉をボードに書き込み、予定の中に取り入れるようにする。

No.6

単元・題材名 「 朝の活動・帰りの活動 」 (日常生活の指導)



学習上または生活上の困難さ

- 活動の見通しがもてないと不安になり、否定的な言葉を発したり、集団から離れようとしたりする。
- 全体への指示だけでは見通しをもつことが難しいため、個別に手順表や活動表を提示する。

指導内容の区分

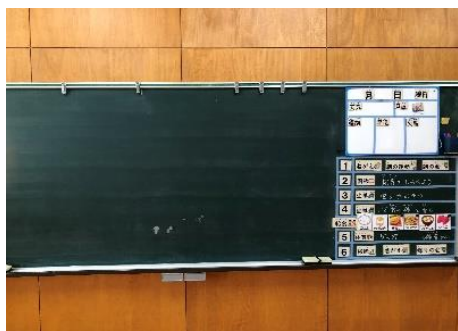
心理的な安定 コミュニケーション

支援のポイント
～自立活動の観点から～

- 全体へ提示している黒板の予定表では、情報量が多く、一日の見通しをもちにくいいため、個別で見やすい大きさの予定表を用意している。情報量を減らすために、毎日同じ時間に取り組む、朝の運動や歯磨き、掃除などは予定表に入れずに提示している。また、学習がよりイメージしやすくなるように、文字に加えてイラストが入ったカードを用いている。

No.7

単元・題材名「一日の予定に見通しを持とう」（日常生活の指導）

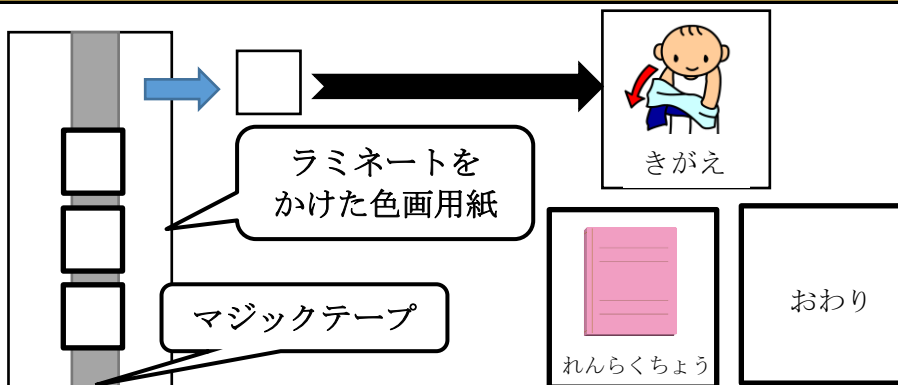


<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○情報は耳で聞くことよりも目で見ることの方が入りやすい。 ○見通しがもてないと不安を感じる。 ○抽象的概念の形成が難しい。
<p>指導内容の区分</p>	<p>心理的な安定 環境の把握</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○予定表のある黒板周辺には、余計な情報を提示しない。 ○授業カードにイラストを添え、教科名から活動内容がイメージできるようにする。 ○教室移動があるときや準備するものがあるときには記入し、生徒が予定表を見て判断し、行動できるようにする。 ○授業内容を表記するときには、生徒が分かりやすい言葉で書くとともに、漢字にはいろいろな読み方があることに気付けるようにする。

No.8

単元・題材名「朝の準備をしよう」（日常生活の指導）

<手順表>



<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○やりたい事が優先されてしまい、朝の準備や着替えを行えない。 ○やっている事を中断されると気持ちが不安定になり、活動が滞ってしまう。 ○自分の持ち物を見失ったり、他人のロッカーに入れてしまいトラブルになったりする。
<p>指導内容の区分</p>	<p>心理的な安定 環境の把握</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○終わった活動とこれから行う活動を分かりやすく整理したり、見通しがもてるように、終わった活動のカードは外すように促す。 ○自分のロッカー、物を置く場所が理解できるように、名前や個別のマーク、物を表すイラストや写真など、分かりやすいカードを使用する。 ○自分から取り組めるように、操作しやすい素材等を工夫する。

No.9

単元・題材名「帰りの準備をしよう」（日常生活の指導）



<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<p>○持ち物の管理が難しい。 ○何を準備したら良いのか分からなくなってしまう。</p>
<p>指導内容の区分</p>	<p>環境の把握</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<p>○本生徒の連絡帳を置くかごの中にチェック表を入れておくことで、チェック表を活用しやすい状況をつくっておく。 ○何を持ち帰れば良いのか視覚的に確認することができるように、チェック表内の項目は一つずつ達成することに、OKの磁石を動かすよう言葉掛けをする。</p>

No.10






















単元・題材名「自分からあいさつをしよう」（日常生活の指導）



<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<p>○顔の認識はできるが、大人(教師)の名前と一致させることが難しい。 ○相手からの言葉は理解できるが、自分の気持ちを言葉にすることが難しい。</p>
<p>指導内容の区分</p>	<p>人間関係の形成 コミュニケーション</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<p>○名前カードから教師の顔写真を選ぶ、絵合わせのような活動を行う。 ○帰りの会は、次の日の時間割の際に担当教師の名前を呼び、顔写真を選び貼る。 ○朝の会は、当日の時間割を話す際に教科と担当教師の名前を読み上げる。 ○生徒の前で先生を呼ぶときは、必ず名前を言うように心掛け、生徒にも同じように名前を呼ぶように働きかける。 ○顔写真カードにより、人の認識ができるかを確認することで、校内実習の礼状を書く際など、お世話になった先生を適切に選べるように働きかける。</p>

No. 11

単元・題材名「はみがきをしよう」（日常生活の指導）

	<table border="1"> <tr> <td>1.</td> <td></td> <td>ひだりのおくば</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td></td> <td>ひだりのおくば</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td></td> <td>みぎのおくば</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td></td> <td>みぎのおくば</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td></td> <td>うえのまえば</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td></td> <td>したのまえば</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td></td> <td>しあげ</td> <td></td> </tr> </table>	1.		ひだりのおくば		2.		ひだりのおくば		3.		みぎのおくば		4.		みぎのおくば		5.		うえのまえば		6.		したのまえば		7.		しあげ	
1.		ひだりのおくば																											
2.		ひだりのおくば																											
3.		みぎのおくば																											
4.		みぎのおくば																											
5.		うえのまえば																											
6.		したのまえば																											
7.		しあげ																											
<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○見通しのもてない場面や急な変更がある場面において、気持ちが不安定になり怒ったり泣いたりすることがある。 ○生活上・学習上の動作において、早く終わらせようと急ぎすぎてしまったり、力の加減ができなかったりすることがある。 ○毎日繰り返している活動でも、行動し始めるきっかけとして教師の言葉掛けが必要なことがある。 																												
<p>指導内容の区分</p>	<p>心理的な安定 環境の把握</p>																												
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歯磨き手順表のイラストに注目させ、どの部分の歯を磨けば良いか理解して取り組めるようにする。イラストだけで理解が難しい場合には、イラストをもとにやりとりをして確認する。 ○活動の流れについて見通しをもちやすいよう、手順表と併せて「いち、上の歯。」など簡潔な言葉掛けをする。10回磨いたら次に進むというように、流れを決めて取り組む。 																												

No. 12

単元・題材名「みんなで遊ぼう」（日常生活の指導）



児童が指さした名前を教師が読む。



伝えたい言葉を、児童が指さして伝えることができるようにする。

<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○聞いたことを理解することはできていると思うが、表出が少ない。 ○意思を伝えられないので、気持ちが不安定になりやすい。 ○経験の少ない活動に見通しをもつことが難しい。
<p>指導内容の区分</p>	<p>人間関係の形成 コミュニケーション</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びの中で取り組むことで、楽しみながら「教師に要求する」「教師からの反応を得る」「他者の反応を楽しむ」という一連の流れを経験することができるようにする。 ○平仮名五十音表を使う時は、教師の意図を伝えるためだけに使用しない。児童の気持ちを表出する教材として使用することで、気持ちを伝える道具であることを認識できるようにする。

No. 13

単元・題材名「絵本の読みきかせ」（日常生活の指導）



『おめでとうございます』 『おめでとうございます2』



『かお かお どんなかお』

学習上または生活上の困難さ

- 言葉でのコミュニケーションが難しく、自分の思いや気持ちを伝えるににくい。
- 感情の表出が少なく、物や人とのかかわりが乏しい。
- 集団活動で注意力が散漫になりがちである。
- やりたいことができないと不適切な行動に出てしまうことがある。

指導内容の区分

心理的な安定 人間関係の形成 コミュニケーション

支援のポイント
～自立活動の観点から～

- 毎日、朝の会の活動の最後に「おたのしみ」として、また帰りの会の前に行う。
- 文字数が少ないもの、繰り返しの言葉で分かりやすいものを選んだ。
- 「おめでとうございます」は大型絵本を使用し、より興味をもちやすくした。

No. 14

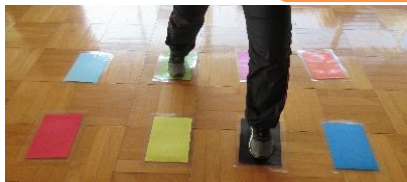
単元・題材名「よく見て動いてみよう」（国語）



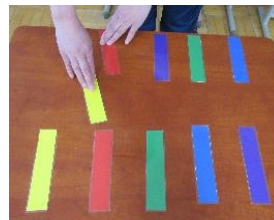
机上でカードに触る



床でカードに触る



足でカードに触る



見本を見て並べ替える

学習上または生活上の困難さ

- 注意集中を持続させることが困難である。
- 様々な刺激に反応して、興味が移りやすい。
- 感情のコントロールが難しい。

指導内容の区分

心理的な安定 環境の把握

支援のポイント
～自立活動の観点から～

- 初めは、机上の狭い範囲で提示された色カードに触るという活動から取り組む。慣れてきたら、床に色カードを置いて、足で色カードに触れるなど、活動の範囲を広げていく。
- ゲーム感覚で取り組むことで、楽しみながら「見る」「考える」「行動する」という一連の流れを経験することができるようにする。

No.15

単元・題材名「よくいれてみよう いろをわけてみよう」（算数）



<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○手元を見て物を操作することが難しい。 ○手指に力を入れることが難しい。 ○色や形の弁別が難しい。
<p>指導内容の区分</p>	<p>環境の把握 身体の動き</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○手元を見るように言葉掛けをする。 ○迷っている場合には、入れる場所を指差して伝える。 ○指先に力を入れて押し込む動きをガイドする。 ○少ない数から始め、できた時には、大いに称賛し、成功体験を積み重ね、取り組む意欲を喚起する。

No.16

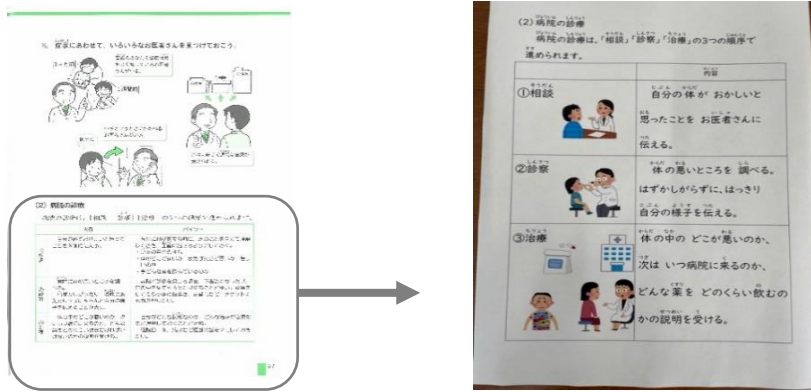
単元・題材名「適切な言葉で伝えよう」（国語）



一文字に注視しながら、学校生活で使うフレーズを適切に発音できるようにする。
フレーズを1文にし、カードを左に引く。

<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉を「音（音声）」のみで理解しなければならないので、あいまいな発音になっている。 ○コミュニケーションは、キーワード（単語）のみで行っている。文の構成が未熟である。 ○言葉の発音が適切ではない。 ○理解力に不安があるので、何度も聞き返して確認する。
<p>指導内容の区分</p>	<p>心理的な安定 環境の把握 コミュニケーション</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○補助具を使用することで、一文字を注視することや一文字ずつ、ゆっくり、はっきり、適切な音量で発音することができるように働きかける。

単元・題材名「病院や保健所の役割」（社会）



学習上または生活上の困難さ

- 漢字を読んだり書いたりすることが難しい。
- 言葉の意味が理解できない。

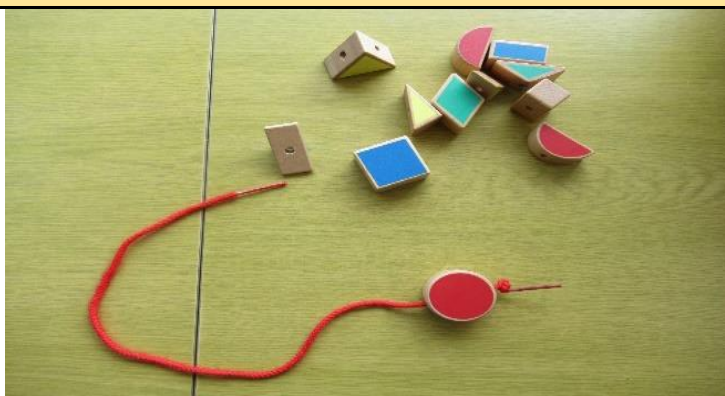
指導内容の区分

環境の把握 人間関係の形成

支援のポイント
～自立活動の観点から～

- 本人にとって読み取りやすい書体や文字の大きさ、文字間や行間、文節を区切る、アンダーラインを引き強調する、振り仮名をつけるなど、教科書やワークシートを本人に適した教材に替え、読み書きの困難さを軽減しながら、新たな文字を習得していく方法を身につけることができるようにする。
- 写真や絵、実体験と言葉の意味を結びつけたり、本人がイメージできる言葉に言い換えたりしながら、言語概念を形成する工夫を行うようにする。
- 課題の設定を工夫し、「できた」という経験や自信をもちながら学習活動に参加できるようにする。

単元・題材名「ひもとおし」（算数）



学習上または生活上の困難さ

- 手元を見て操作することが困難である。
- 指でつまむなどの細かい活動が困難である。

指導内容の区分

環境の把握 身体の動き

支援のポイント
～自立活動の観点から～

- 同じ教材を用意して活動の内容を言葉を変えながら同じように行い伝える。
- ひもを通しにくい時には、穴が開いている物を机に置きながらひもを通しやすい角度に動かしながらひもを通しをする。徐々に手に持って入れられるように段階的に進めていく。

No.19

単元・題材名「マッチングをしてみよう」(国語)



<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<p>○不快なことや意に沿わないことがあると不安定になり、学習に取り組むことが困難である。 ○状況に見通しがもてなかったり、興味関心が低い学習内容では、離席し、学習に取り組むことが難しい。</p>
<p>指導内容の区分</p>	<p>心理的な安定 コミュニケーション</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<p>○はてなボックスの中に手を入れてカードを取り、マッチングさせるというやり方を何度か見せることで、その方法を理解できるように支援した。 ○マッチングカードは、本人の興味がある動物などの絵カードを用意し、落ち着いて取り組めるようにした。 ○教師の指示を聞き、友達をと順番を守って活動できるように配慮した。</p>

No.20

単元・題材名「いろいろな言葉」(国語)



<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<p>○見通しがもてないと、離席することが多い。 ○学習に集中していただける時間が短い。 ○周囲の音に敏感で、大きな音がすると集中が切れたり離席したりする。 ○姿勢の保持が難しく、席を立てて横になろうとする。</p>
<p>指導内容の区分</p>	<p>心理的な安定、環境の把握</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<p>○「今日の授業はこれをやったら終わり」ということが分かるように課題をすべてかごの中に入れ、所定の場所から自分で持ってくるようにしている。 ○初めにかごからすべてのケースを取り出し、終わったものからかごに戻していく。 ○クリアケースを使って課題を種類ごとに分けることで、1つの課題の終わりが分かり、同じ課題に取り組む時間が長くないようにしている。</p>

No. 21

単元・題材名「しりとりをしよう」(国語)



<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の中であまり使われない言葉の理解は難しい。 ○気持ちや要求を相手に分かるように伝えることが難しい。 ○身辺処理や学習に気持ちが向かず、活動が滞ることがある。
<p>指導内容の区分</p>	<p>人間関係の形成 コミュニケーション</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が知っている言葉の単語カードと絵カードを用意して、初めて取り組む、しりとり抵抗なく取り組むことができるようにした。 ○しりとりは単語カードと絵カードを選択して続けていくようにした。しりとりという言葉遊びを通して語彙を増やしていけるようにした。 ○身近にある言葉(名詞)に加え、日常生活で使用することが多い動作や要求を表す言葉を単語カードと絵カードにして提示した。

No. 22

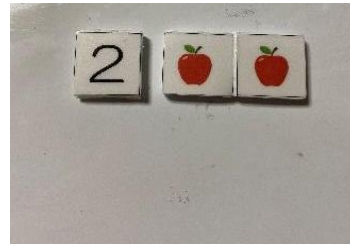
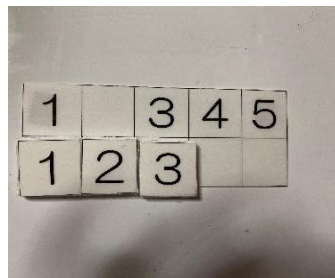
単元・題材名「読もう 書こう」(国語)



<p>学習上または生活上の困難さ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○口を閉じることの困難から、発声・発語が不明瞭になる。 ○発声・発語が不明瞭になることから、話すことに自信が持てず、コミュニケーションが取りにくい。
<p>指導内容の区分</p>	<p>心理的な安定 環境の把握 コミュニケーション</p>
<p>支援のポイント ～自立活動の観点から～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○発語に対して自信がもてないことから、学習に対する苦手意識を待たないよう、友達と一緒に音読したり、教師の後に続けて読むよう促すなどし、楽しい雰囲気や学習に参加できるよう働きかける。 ○口形を意識できるよう、顔に手で触れる、鏡で確認する、顔の表情のまねっこ遊びをするなど、口形をを意識できるような働きかけをする。

No.23

単元・題材名「足りない数を探そう」(算数)



学習上または生活上の困難さ

- 広範囲を視覚で認知することが難しい。
- 音声言語として求められたときに発語が難しい。

指導内容の区分

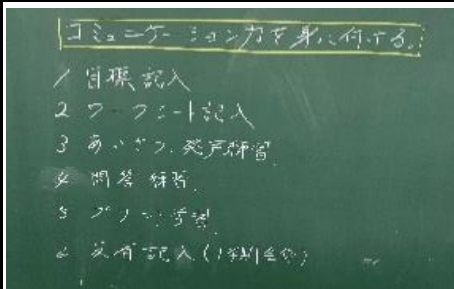
環境の把握 コミュニケーション

支援のポイント
～自立活動の観点から～

- 手元で狭い範囲の視野でも見やすいように3つの選択肢にする。
- 「2」などの言葉がけと指で2を作り模倣するようにする。
- 空欄以外のマッチングは視野に入るようにずらすようにする。
- 数詞を数えてから、数をりんごチップで並べ数えるようにする。

No.24

単元・題材名「コミュニケーション力を身に付ける」(職業)



学習上または生活上の困難さ

- 学校生活や教師とのやり取りの中で、「聞くこと・話すこと」が国語の授業を通して展開している。特に3年生においては、聞くことに関しては指示・理解において言葉の意味を解釈して行動に移すことができる生徒が多い。
- 自分の言葉を用いて相手に伝えることを苦手としている生徒がほとんどである。

指導内容の区分

コミュニケーション

支援のポイント
～自立活動の観点から～

- 挨拶練習や発声練習を行い、声量、声色、声の速さや姿勢を意識させる。
- 問答形式でワークシートに問われていることを、自分の言葉で考え、整理し質問する側と答える側にわかれて行う。なお、質問に対して即座に言葉で応答することが苦手な生徒が多いのでワークシートに記入させ手掛かりにし活用する。
- 問答形式は2人1組になって行う。他の生徒は問答形式で感じたことを自分の言葉を用いて、良かった点、改善点を発表させ、2人1組の相手に対して自分の言葉で伝える場面を設ける。
- 教師はファシリテーターのみに専念する。

単元・題材名「筆箱の鉛筆デッサン」（美術）



学習上または生活上の困難さ

○絵画表現において、立体物を正確に形をとり、平面上に表現することは難しい。

指導内容の区分

環境の把握 身体の動き

支援のポイント

～自立活動の観点から～

○鉛筆の筆圧によるグラデーションの表現の練習や、立方体、円柱、球など、基本的な形態に陰影をつける練習をし、デジタルカメラで自分の筆箱を撮影し、大型モニターで構図の良し悪しを確認した。

○形を正確にとることが最大のネックなので、そこはトレーシングペーパーを使用した。

○固有色や陰影は、実物をよく観察したり、白黒で印刷した筆箱の写真で明度を確認したりしながら表現させた。